

2004年 6月 29日

第12回WIN-Global年次大会  
大会セッション  
国際市民フォーラム  
(2004年5月17日～22日、東京他にて開催)

WIN-Global / WIN-Japan 会長

小川 順子

(日本原子力発電株式会社 広報室 調査役)

# WIN-GlobalとWIN-Japan

- **WIN:Women In Nuclear**

- 原子力、放射線利用分野で仕事をする  
プロフェッショナルな女性の団体
- 目的
  - 女性と次世代層を対象に原子力理解を進める
  - 会員の資質の向上。男女共同参画社会の推進。
  - 国際交流

- **WIN-Global WINの世界組織**

- 60カ国、20000名の会員 賛助会員

- **WIN-Japan WINの日本組織**

- 210名の会員 賛助会員 組織会員

# 第12回WIN年次大会 (略 :WIN世界大会 )

## 日本開催の意義

- WIN 史上初の本格的かつ大規模な市民参加フォーラムを行い、世界の原子力女性専門家と、一般市民とが意見交換をすることで、世界の原子力事情と日本の現状を、相互にかつ、じかに訴える。
- 海外のWIN会員に、国際市民フォーラム参加による日本における市民合意や、広島視察を通して放射線に対する国民感情などについて、日本の現状を理解してもらい、自国に帰って、日本についての情報提供を行っていただく。
- 未だWIN活動を行っていないアジアの国の代表を招聘し、WIN活動へのモチベーションを高めることにより、その国々における国民の原子力理解を進め、原子力平和利用推進に貢献する。
- 海外の、原子力・放射線利用分野における女性の顕著な活躍を認識し、交流することで、日本におけるWIN会員の更なる活動の場を拡大し、活発化する。
- 原子力・放射線利用を、国内外にアピールする日本初の女性による国際会議を運営することで会員の自信と誇りを醸成する。











# WIN世界大会・日本開催の成果

- **開催意義に叶い、初期の目的を達成した。**
- **国別WIN未組織国活動のモチベーションを高めた。**
  - 初参加 フィリピン、インドネシア、パキスタン、オーストラリア
  - 未組織国 フィリピン、パキスタン、イギリス、ベトナム、オーストラリア
- **国際市民フォーラム450名参加。国内各地の女性交流。毅然とした海外パネリストの発言が好感を持たれた。**
- **様々なマスコミが取り上げ、WIN活動が広く周知された。**
- **国際会議運営を通じWIN-Japan会員の連帯感と資質向上に大きく貢献した。**
- **ヨーロッパ以外の国から初めて、また広報分野から初めて日本出身の会長選出。会議の成功とともに、WINにおける日本の役割が大きくなった。**

# 反省点・今後の課題

- 物価高の東京で行ったため、予算上、来日できないWIN会員が多かった。
- WIN-Asiaにおいては、中国の参加を促すことが重要。
- WIN-Globalの共通言語は、英語なので、WIN-Japan会員の英語力向上について、より努力が必要。



# 今後の活動

- WIN-Japan

- 国際市民フォーラム女性層の参加者フォローを企画
- 女性層への地道なコミュニケーション活動の継続
- 次世代層へのゲストティーチャー活動での、講師としての資質の向上
- 今大会の国際人脈を発展させ、国際原子力理解活動へ貢献
- 原子力関係団体、企業企画行事への協力
- ホームページの充実

- WIN-Global

- 国別組織未組織国の組織化支援
- 会長職と事務局 (WNA ロンドン本部) との連携強化
- 国際会議の場を通じて、WIN活動のPR
- 2005年 (チリ共和国)、2006年 (カナダ) 年次大会開催